

委託事業実施内容報告書
平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名：特定非営利活動法人 プロジェクトまえばし

1 事業の趣旨・目的

(1) 地域の状況

- ・前橋市総社町およびその周辺地域に立地する多くの企業でブラジル人を中心とした外国人の雇用が進み、地域にブラジル人学校、ブラジル人教会、ブラジル食品店などができるまでにその数が増加している。また、公立の小中学校、保育園に通う外国人児童も多い。
- ・これに伴って、地域の日本人住民と外国人との間で、主として言葉の障壁による様々な生活上の軋轢が生じている。
- ・一方、群馬県には日本語学校等がほとんどなく、生活者として学べる場は、地域の国際交流協会の日本語教室に限られる。しかし、場所や時間・曜日等の制限のため、継続して学習するところが困難である。

(2) 事業の目的

上記の地域状況に鑑み、以下の点を目的に日本語教室を設置・運営する。

- ・外国と日本の言語や文化の違いを熟知している日系人等、日本語教師、日本人補助が協力して授業を行うことにより、日本人スタッフと学習者の意志の疎通を容易にし、両者の相互理解を促進する。これにより、学習者の生活状況の改善に資する日本語能力の獲得を目指す。
- ・地域の人的な結びつきを生かし、学識有識者、地元自治会関係者、NPO法人関係者等により構成される運営委員会を設立し、効果的・効率的な教室運営を行う。
- ・より効率的に、高い学習成果があげられる日本語指導計画を作成する。地域の日本語教室の指導計画の標準たりうるものを目指す。

(3) 本事業の特質

上記の目的実現のため、当日本語教室では、以下の点を特に考慮した。

- ・**授業時間：**
学習の動機付けおよび学習事項の演習の時間を確保するため、一回の授業時間を3時間とした。
- ・**授業日：**
平日は働いている学習者の事情を考慮し、まとまった時間が取れる日曜日を授業日とした。ただし、日曜日は学習者が家族と過ごすための貴重な時間である事も考慮し、午前中で終了するように設定した。
- ・**広報活動：**
地域の多くの在住外国人が足を運ぶ輸入食材店や外国人学校、および外国人を多く雇用している地元企業を中心にチラシを配布した。同時に地域の人的なつながりを生かして紹介活動を行った。
- ・**託児所の設置：**
子供のいる学習者が家族連れで参加できるよう、資格のある保育士のいる託児所を毎回設置した。託児所では文字や数字を使った遊びを取り入れ、外国人児童の日本語学習にも資するものとした。
- ・**クラス分け：**
学習者の日本語能力、および要求に配慮したクラス分けを行った。学習者の一人一人に行き届いた指導を行い、かつ学習者同士の日本語での会話練習の機会を充実したものとするため、一クラスの人数は5～7名とした。
- ・**教室スタッフ：**
資格・経験のある日本語教師、学習者の母語に通じた通訳、学習者の母語を学んだ経験のある補助員の連携で、きめ細かい指導をはかった。また、地域の生活者でもある学習者の簡単な生活相談には常の応じられる態勢をとった。

・ **日本語指導法および授業内容：**

初日のオリエンテーションで、「快適な生活ができる日本語能力の獲得」という当教室の趣旨を十分に説明し、学習者の一人一人に具体的な学習ニーズの聞き取りを行った。

毎回の授業では実際の地域生活の中で遭遇する様々な場面を主題として取り上げ、各生活場面での会話に必要な文型、その文型の理解・運用に必要な文法を効率的に学習できる授業計画を作成した。

・ **交流イベント：**

地域の国際交流団体と協力して交流イベントを実施し、学習者が地域の日本人との交流しながら、教室で学んだ日本語を実際に使う機会を作った。

2 運営委員会の開催について

(1) 概要

地域に住む外国人が快適に生活するための日本語教室運営に関する協議と検討を行う。

(2) 運営委員

瀧澤 幸恵 NPO法人 地域診療情報連携協議会 事務局

吉永ジズレネ ブラジル人学校 校長

小林 肇 私設地域文庫主催

佐藤 宏 総社町元自治会長、きらり総社会長、有限責任事業組合元気さん組合員

坂庭知恵子 元高校教師、民生委員

(3) 各会議の概要

・ **第一回（準備会議）**

① 日 時：2008年11月8日（土）

14:00～16:00

②場 所：けんこうサロンなでい 事務所

③出席者：

・ 運営委員

瀧澤幸恵 吉永ジズレネ 小林肇 佐藤宏

坂庭知恵子

・ スタッフ

岩井愛、森田恵、田代由貴、大澤亜弥、増木里美

④内 容：

〔1〕出席者紹介

〔2〕日本語教室運営計画の確認

〔3〕スケジュールの確認

〔4〕役割分担

〔5〕第1回日本語教室役割分担

〔6〕日本語教室の名称

〔7〕生徒募集ちらしについて

〔8〕必要教材、備品等について



・ **第二回**

① 日 時：2008年12月14日（日）

12:00～14:00

②場 所：けんこうサロン なでい 事務所

③出席者：

・ 運営委員

瀧澤幸恵 吉永ジズレネ 小林肇 佐藤宏 坂庭知恵子

・ 日本語教室スタッフ：

田代由貴、増木里美、森田恵

- ④内 容：
- 〔１〕出席者紹介
 - 〔２〕文化庁委託業務の内容説明
 - 〔３〕日本語教室の名称を「日本語教室 はればれ」と決定
 - 〔４〕日本語教室運営プログラムについて
 - 〔５〕今後のスケジュールの確認
 - 〔６〕交流会について
 - 〔７〕スタッフ会議について



・ 第三回

①日 時：２００９年３月１５日（日）１２：００～１４：００

②場 所：けんこうサロン なでい 事務所

③出席者：

- ・運営委員
瀧澤幸恵 吉永ジズレネ 小林肇 佐藤宏
坂庭知恵子
- ・日本語教室スタッフ
岩井愛、大澤亜弥、田代由貴、増木里美、
森田恵

④内 容：

- 〔１〕これまでの教室運営についての反省
- 〔２〕最終回（３／２２）の授業について
- 〔３〕委託事業終了後の日本語教室について



・ 第四回

①日 時：２００９年３月２９日（日）１２：００～１４：００

②場 所：けんこうサロン なでい 事務所

③出席者：

- ・運営委員
瀧澤幸恵 吉永ジズレネ 小林肇 佐藤宏 坂庭知恵子
- ・日本語教室スタッフ
岩井愛、田代由貴、増木里美

④内 容：

- 〔１〕これまでの教室運営についてのふりかえり
- 〔２〕今後の活動予定
- 〔３〕今後の日本語教室の展

（ 3 日本語教室の開催について

（１）日本語教室の名称：日本語教室 はればれ

（２）開催場所：けんこうサロン なでい
（所在地：群馬県前橋市総社町総社８６２）

（３）学習目標：快適な生活ができる日本語の習得

（４）使用教材・リソース：（参考資料参照）

- ・主教材：独自に作成したテキスト
- ・副教材：日本語の教え方スーパーキッド、新文化初級日本語、文化初級日本語、新日本語の基礎漢字練習帳、ストーリーで覚える漢字３００、にほんご宝船、おしゃべりのたね

(5) 受講者募集の広報活動：(参考資料参照)

- ・方法：チラシ配布および教室スタッフあるいは受講者による紹介
- ・場所：ブラジル食品店、ブラジル人学校、人材派遣会社
- ・時期：10月末、12月末、2月中旬

(6) 受講者の総数：51名

(7) 開催時間数(回数)：57時間(19回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日	時間数	参加人数 (託児数)	国籍・母語	教授者・補助 者・保育者人 数	主題 到達目標
①	11月 9日 9:00-12:00	3時間	11名 (3名)	ブラジル、ポルトガル語(9名) インドネシア、インドネシア語 (2名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	地域の祭りを見物 祭りを楽しむ
②	11月16日	3時間	11名 (3名)	ブラジル、ポルトガル語(11名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	自己紹介 自分や家族について 話せる
③	11月23日	3時間	17名 (3名)	ブラジル、ポルトガル語(11名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	買い物 様々な場所で買い物 ができる
④	11月30日	3時間	18名 (3名)	ブラジル、ポルトガル語(18名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	友達になる 日常の出来事の会話 ができる
⑤	12月 7日	3時間	11名 (6名)	ブラジル、ポルトガル語(11名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	パーティー パーティーに誘った り、断ったりできる
⑥	12月14日	3時間	9名 (4名)	ブラジル、ポルトガル語(9名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	薬を買う 薬局で薬を買った り、病気の症状を言 える
⑦	12月21日	3時間	19名 (5名)	ブラジル、ポルトガル語(19名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	郵便局 郵便局で用事を済ま せられる
⑧	1月11日	3時間	19名 (5名)	ブラジル、ポルトガル語(18名) アメリカ、英語(1名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	交流イベント 書道に親しむ
⑨	1月18日	3時間	5名 (2名)	ブラジル、ポルトガル語(18名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	忘れ物 忘れ物、落とし物を尋 ねられる
⑩	1月25日	3時間	14名 (4名)	ブラジル、ポルトガル語(14名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	職場 職場で許可を求めら れる
⑪	2月 1日	3時間	10名 (4名)	ブラジル、ポルトガル語(9名) インドネシア、インドネシア語 (1名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	緊急時 救急車を呼べる
⑫	2月 8日	3時間	16名 (5名)	ブラジル、ポルトガル語(15名) インドネシア、インドネシア語 (1名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	交流イベント 救命の技術・知識を 習得する
⑬	2月15日	3時間	8名 (2名)	ブラジル、ポルトガル語(8名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	電話 学校でよく使われる 漢字を読める

⑭	2月22日	3時間	8名 (4名)	ブラジル、ポルトガル語(7名) ペルー、スペイン語(1名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	面接 仕事の面接で自己PRできる
⑮	3月1日	3時間	11名 (1名)	ブラジル、ポルトガル語(11名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	料理 料理の作り方を聞ける、説明できる
⑯	3月1日	3時間	12名 (5名)	ブラジル、ポルトガル語(12名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	交流イベント 伝統文化を楽しみながら交流を深める
⑰	3月8日	3時間	10名 (4名)	ブラジル、ポルトガル語(19名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	不動産屋 住まいを探せる
⑱	3月15日	3時間	7名 (2名)	ブラジル、ポルトガル語(4名) ペルー、スペイン語(3名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	苦情・謝罪 日本語で苦情を言える、謝罪できる
⑲	3月22日	3時間	7名 (4名)	ブラジル、ポルトガル語(5名) ペルー、スペイン語(1名)	教授者3名 補助者2名 保育者1名	すきな言葉 みんなの前で抱負が言える

1) 各回のテーマづくり、シラバス

今回の日本語教室は、外国から日本に来て生活している人々が、日々の営みの中で感じる不安、戸惑いを言語運用の側面から支援し、その不安を取り除いていこうというのが目的であった。したがってカリキュラムも以下の3点に気を配った。まず「実際の生活ですぐに役に立つ日本語」を取り上げること。つぎに、仕事の合間をぬって勉強に来る学習者の負担が大きくなならないよう、いつ来ても授業についていける「1回完結の授業」で、欠席したために内容が分からないということをなくす。また、1回ごとに完結する内容でありながら、文法項目の難易度、文章の長さ等は段階的に引き上げていき、レッスン全体が終わると、日常生活に必要な運用能力が身につく、また今後の学習方法を自分で計画できるようになること。

以上の観点から、全体を「場面シラバス」で構成し、そこに地域の人との交流を目的としたイベントを絡めていくことで、実際の「場面」に遭遇していくという流れを作った。選択した「場面」はどんな属性(仕事、年齢...)の人でも遭遇しうる、日常生活で必要な手続き的なもの(「買い物」「郵便局」など)、周囲の人との関係を作っていくためのもの(「友達になる」「誘う」など)、非常事態に備えるもの(「病気」「忘れ物」「怪我」など)からピックアップし全体の骨組みを作った。さらに今回の教室では、学習者が「今」抱える問題・不安をできるだけ授業に反映させたいと思い、各場面の内容を学習者の生活状況に即したものにし、その都度テキストを作っていた。具体的には、「忘れ物」では県内の学習者は電車、タクシー等に乗る機会は少ないため、そういった場面は省く。「電話での会話」では実施時に求職中の学習者が多かったため、求人の問い合わせについて練習する、といった形である。コース開始直後に、折からの経済不況の影響を受け、仕事を失う学習者が続出し、「就職活動」のための日本語を学びたいというニーズが高まり、急遽ハローワークでの登録の仕方、求人票の見かた、履歴書の書き方などを取り上げることとなった

2) 媒介後の使用について

今回の教室は、ポルトガル語を母語とする学習者のために通訳を入れ、初級レベルでもお互いの文化、風習、について話し合える機会をつくり、また日本語学習のサポートを行なっていった。

3) 四技能のバランスについて

「書く・読む・聞く・話す」指導のバランスについては、当初毎回、読み、書きの練習もテーマに沿ったものを多く入れていく予定であったが、学習者の声を聞くと、教室内ではできるだけ多く日本語を「話す」練習がしたいという意見が多く、また各人の持つニーズも異なるため、授業は「会話」中心に行い、読み・書きは自宅学習および個別指導という形になった。しかし表記と発音の関係は自宅学習では難しいと感じ、毎回時間を設けて表記の確認を行なった。

4) 文法

毎回の会話に知っておきたい文型を組み入れ、実際の場面で使えるように練習をした。文型の提出順は、一般的な「文法積み上げ式」テキストを参考にはしたが、あくまで場面を重視し取捨選択を行なった。初級学習者でも、初期の段階で必要とされるであろう「許可を求める」表現などは、動詞のて形を使う「～てもいいですか」の代わりに、「～ます。いいですか。」といったサバイバル的な表現で使える言葉を増やすなどの対応をし、一方で可能を表す言い方としては、一般的に提出順が早い「～ことができる」よりも、実際場面でよく使われ、語数も短い「～(ら)れる」(動詞可能形)を取り入れたりし、学習者が実際声に出して使いやすい表現の習得を目指した。

(9) 特徴的な授業風景

◆第7回(郵便局へ行く)

- 〈1〉開催日：12月21日
- 〈2〉時間数：3時間
- 〈3〉開催場所：けんこうサロン なでい
- 〈4〉受講者数：19名
- 〈5〉内容：
 - ・今回の場面での動機付け
 - ・郵便局での会話
 - ・宛名の書き方、年賀状の話
- 〈6〉目的：郵便局で荷物を送る
- 〈7〉当日の様子：

郵便局で荷物を送る場面での会話練習を中心に学習。書く練習で実際に年賀状を書いてみた。折からの経済危機で職を失う人が急増。急遽、履歴書の書き方の希望をとったところ、希望者が参加者19名のうち16名だった。学習者のニーズに素早く対応できた。



◆第8回(交流イベント・書き初め)

- 〈1〉開催日：1月11日
- 〈2〉時間数：3時間
- 〈3〉開催場所：けんこうサロン なでい
- 〈4〉参加者：外国人19名、日本人17名、子ども5名
- 〈5〉内容：書き初め、蕎麦打ち体験
- 〈6〉目的：日本の伝統文化を実際に体験する。
- 〈7〉当日の様子：
 - ・書道の心得のある日本語教室のスタッフが作成した手本を見ながら、書道に挑戦した。学習者の全員が、一点は作品を完成する事ができた。
 - ・蕎麦打ちも、本職の蕎麦職人の実演・指導のもと、多くの受講者が積極的に体験した。



◆第12回(交流イベント・救命講習)

- 〈1〉開催日：2月8日
- 〈2〉時間数：3時間
- 〈3〉開催場所：けんこうサロン なでい
- 〈4〉参加者：外国人16名、日本人16名、子ども5名
- 〈5〉内容：
 - 前橋西消防署の救命指導員を招いて、心肺蘇生法やAEDの使用法等の講習を受ける



〈6〉目的：緊急時に、自分や他の者の生命を守る方法を学ぶ。

〈7〉当日の様子：

- ・救命処置は、簡単そうに見えても意外に難しい。参加者は指導員に積極的に質問をしながら取りくみ、全員が無事に3時間の講習を修了して、後日修了証の交付を受けた。
- ・講習を受けながら、傷病者発見時の対応として、「日本人には『救命の心得のない素人が下手に手を出すとかえって危険である』と考えて救命行為をためらうものも多いが、ブラジル人ならみな率先して救助しようとする」といった国民性についての比較論が参加者の間でなされた。

◆第16回（交流イベント・ひな祭り）

〈1〉開催日：3月1日

〈2〉時間数：3時間

〈3〉開催場所：けんこうサロン なでい

〈4〉参加者数：外国人12名、日本人10名、
子ども5名

〈5〉内容：

- ・ひな祭りの意義を学ぶ。
- ・手巻き寿司とパステウ（ブラジルの料理）を作って食べる

〈6〉目的：

- ・日本の伝統行事、食文化に親しむ。
- ・日本と外国（ブラジル）の料理を、日本人参加者とともに作って食べることで、相互の理解を深める

〈7〉当日の様子：

- ・パステウは揚げ餃子に似たブラジルの料理。日本人参加者にとってはあまりなじみのない料理であったが、好評であった。
- ・参加者がお互いに自国の料理の作り方を教えあいながら交流できた。



（10）活用した日系人等（日本語を母語としない）の名簿

氏名	母語（国籍）	来日年（日）数	参加回数	当該教室での役割
岩井 愛	ポルトガル語 （日本）	13年	17回	教授者、通訳
原木トチ川上	ポルトガル語 （ブラジル）	14年	1回	教授者、通訳

4 事業に対する評価について

（1）当初の学習目標の達成状況

今回の教室はあくまでも生活者としての外国人の「生活支援」を目的としたものであるため、習得度を測るテストのようなものは実施せず、学習者一人一人が自らの目標に近づけたかどうかを評価の基準とした。具体的にはコース開始時およびコース途中で、現在不便に感じていること、日本語を使ってやってみたいこと等のアンケートに答え、修了時に振り返りをしてもらうというものである。

最後の授業時に、日本語教室参加の成果を振り返り、学習目的が達成されたかを評価する目的でのアンケートの結果は、新しい友達が増えた。子供が預けられて継続して参加できた。日本語を話すことが恥ずかしくなくなった。先生とは信頼関係が築けた。レッスンは新しい言葉（けがの言葉、かたい言葉、柔らかい言葉）をたくさん覚えた。会話中心で学習者がたくさん話せるので良かった。とい

う回答を得た。

（２）学習者の習得状況

１）会話

テーマごとに会話のテキストを作り、それに基づいて授業を進めていった。テキストについてはできるだけ現実場面に近い形になるようにし、「文法学習のため」の会話にならないように気を配った。特に、「場面」や「話す相手」による文体の違いについては、早い段階で取り入れ、いわゆる「友達ことば」と「丁寧体」「敬語」の使い分けに注意を払えるようにした。対人関係における距離のとり方の文化差もあり、困難さを感じる学習者も多かったが、「誤解の少ない、よりよい人間関係」を築いていくための知識としての必要性は伝わったのではないかと思う。

２）表記・語彙

「語彙を広げたい」という学習者の声もあり、各テーマの会話学習の際、関連した語彙を取り上げ、漢字表記とともに確認していった。

表記については自宅学習用として、ひらがな、カタカナ、漢字の練習プリントを配布し、添削を行ったり、市販のテキストの紹介を行なった。文字に慣れてきたコース後半では、毎回のレッスンの始めに、表記と音の確認をし（長音、促音、拗音など）ディクテーションの時間をとった。仕事で使える日本語を目指す中級学習者は「正確に書けるようになりたい」という希望もあり、表記と音を確認するいい機会になったようだ。

３）読む・書く

読みの練習としては、テーマにそった簡単な情報取り（処方箋の表示、パーティーのお知らせ、折込チラシ、町や職場で見かける掲示物、求人票など）を中心に行い、書きの練習としては、クラス全体で時間を設け、住所や名前等を記入できるようになる、はがきを書く、履歴書の書き方などを行なった。

（３）日本語教室設置運営の効果、成果

１）グループレッスン

会話と文型練習は初級、中級の２つのグループに分かれて行い、初級グループにはポルトガル語の通訳を入れた。グループ分けはプレースメントテスト等ではなく、スタート時にひらがなカタカナが読めるか、通訳なしでいいかを一応の目安とし、学習者本人が選択する形をとった。またコース途中でのレベル変更も自由に行なえるようにした。会話中心の今回の教室では、学習者同士が刺激を受けながら、また時には母語で確認し合いながら効率的に学習をしていき、かつ質問もしやすい、各グループ７～８人の規模で行なえたのはよかったと思う。また、表記やテーマについて話し合う時間は全体で行い、参加者全員の仲間意識を高め、問題を共有できるようにし、一方で個別相談の時間もとることで、個々人が「今」抱えるニーズにも対応できた。

２）カリキュラム

当初、日本語教室開始時に作成されたカリキュラムに変更を加えながら、教室がすすめられた。求人票の見方や履歴書の書き方などニーズに合わせることができたケースも多かった。特に、初級クラスは、通訳のおかげで、「どんな表現を必要としているのか」を知ることができ、授業の中でも、表現をやさしくしたり、具体的な状況でこういいたいという言い方を提示できたり、参加者にピンポイントで示すことができた。

前橋市内については、既存の地域の日本語教室に、通訳はいない。今回は、対象を日系人に限定したことで、通訳についてもらうことができた。通訳の方は、日本語教育研修も受講済で、意思疎通も

しやすかった。また、日系人の現況を情報提供してくれたおかげで、カリキュラムをよりニーズにあったものに変更していったのではないかなと思う。

通常の日本語教室より、時間を長めにとることにより、日本語担当のスタッフ以外にも、学習した日本語を使って、コミュニケーションをとることができた。

初級レベルの学習者の心理的負担はかなり軽減されたのではないかなと思う。日本語学習ではあえて媒介語を使用しないことで、目標言語の運用能力を伸ばして行く方法もあるが、疑問に思ったこと、聞きたいことをすぐに母語で確認できることで、リラックスした雰囲気での参加してもらうことができた。決められた期間で効率よく学習を進めていく上でも効果はあったと思う。

3) 地域との交流イベント

今回の教室も最も大きな特徴は、月1回のペースで地域住民との交流会を行い、学習した日本語を実際に使ってみる機会を設けたことである。日本語教室とイベントを結びつけたことで、毎回一緒に学習している仲間やスタッフとともに、特別な緊張感もなくイベントに参加でき、また、学習への動機づけと習った表現、言葉を実際場面で確認するという目的をもってイベントに参加したことは、学習者の意識を高めたと思われる。イベント開催に伴う外部との連絡、宣伝活動、運営費の管理まで、日本語教師が行なうにはボランティアとして負担が大きすぎ、また人脈も少なく一からの準備となってしまうが、毎回担当のスタッフがきめ細かに対応してくれたことで実施できたと思う。遠方から来る学習者も多く、直接自分の住む地域との交流ではなかったことや地域住民への情報周知の難しさなど課題は多くあるが、今後各々の学習者が地域との交流を考えていく上でのきっかけづくりはできたのではないかな。

普段の教室とイベントという流れがあり、コース全体にメリハリがあった。イベントへの協力者や参加者との交流では、参加者がそれぞれの目的をもって、イベントに参加しているようで、楽しくしかも有意義な時間を過ごせた。

学習者が地域の日本人と交流を深めながら、日本の文化、習慣を学ぶよい機会になった。多くの学習者が日本の伝統文化に強い関心を示し、積極的に参加・体験していた。

料理や、緊急といったテーマで、日本語を学習し、その後、実際に運用できるイベントを開催するという流れが、日本語の定着に非常に有意義であった。

4) 託児サービス

参加者が家族単位ということも想定し設けられた託児サービスは、学習者の継続した教室への参加をサポートしたと思う。また今回教師側の託児も受け入れてくれたことは、大変有り難いものであった。日本語教師の大半が女性でありながら、育児をしながら教える機会を持つことは大変難しく、スタッフに対する託児のサービスを行なっている教室はほとんどない。こうした配慮が不足しているといわれる日本語教師の人材発掘にもつながった。



学習者からの評判はよく、預けている人は継続利用者が非常に多かった。さらに授業場所とガラス戸で仕切られた隣室を託児所としたことにより、保護者は安心感が得られ、ほかの受講者も授業に集中する事ができた。

5) 広報

人的なつながりを通じた直接的な紹介、いわゆる口コミで受講者が増えていった。すでに受講している学習者が他の学習者に紹介することも多く、そのような場合は、新規の学習者に教室の信頼性を直接に伝えられた。

6) その他

履歴書の書き方や面接の指導後に就職できた人がいた。ハローワークでの職探しに役立ったとおもわれる。また、日本語能力検定試験を受験して合格したニュースを聞くことができた。他の学習者にもよい励みになった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

学習者と日本人が授業後にボランティア活動で地元の用水路脇を清掃して貢献したり、そばうちや料理づくりで公民館の料理サークルの協力を得た。交流イベント全体で地元の外国人と日本人の交流イベントを実施していた団体と協力し、多くの人が参加した。日本語の運用の場として大きな成果があった。今後も交流イベントに参加することにより外国人は地元の情報を知ることができたり、日本語を話すこと恥ずかしさがなくなるようになる。日本人も外国人と話し交流することにより、親近感がもて外国への興味を持つようになり、お互いに交流の必要性を実感するようになる。これらでできた絆が途切れぬように引続き地域の関係者と連携し、これらの活動が広がるようにしたい。



(5) 改善点、今後の課題について（具体的に記述する。）

a. 現状

日本語教室開催直後、経済状況が悪化し、仕事を失う学習者が続出し、就職活動の日本語のニーズが高まった。日本語教室の終わりの頃には、就職できた学習者や日本語能力試験に合格する学習者がでて、クラスに明るい雰囲気になった。日本語教室が終わった後も継続を望む声が多く、同じスタッフが同じ曜日にボランティアで日本語指導をしている。この日本語教室は学習者そして日本人スタッフのよりどころとなっている。

b. 今後の課題

<日本語指導の点から>

1) グループレッスン

レベル差のある学習者をひとつの教室で教えなければならないという問題は、多くの日本語教室が抱えるものであるが、テキスト（プリント）を見る時間をずらす、内容を変える、与えるタスクを変える、また媒介語を効率的に使用していくことで解決の糸口がつかめるのではないかと思う。

2) 媒介語の使用

学習者によっては文法事項の説明や直訳できない表現等を母語で考えすぎてしまうこともあり、その対応については考えていきたい。

3) 時間配分

仕事（時には夜勤など）をもつ学習者が参加しやすいように、週1回3時間という設定で行なった。1回の授業が長時間に及ぶことで、コーナーを区切り、内容にメリハリがつかうように対応はしたが、

各回の時間配分をその日のテーマごとに臨機応変に変えていったため、時間管理があいまいになってしまった部分もある。また開始時間になかなか学習者がそろわないという問題点もあったが、運営側自体が担当者を明確にして時間管理をしっかりと行い、学習者に流されないことも必要であると感じた。

4) カリキュラム

学習者の負担が大きくならないように考えて、いつきても授業についていける「1回完結」の授業は、ある言葉が、言えても、その次が、わからない。という声には、即効性のある方法が、提示しにくく、継続して、日本語を学べる場を提供できることも、必要ではないかと感じた。

5) 文法

初級中上級を問わず、いわゆる「文法知識」の導入のさじ加減は難しく、とにかく文を作って覚えていきたい学習者、文法ルールを基礎から習得したい学習者など、個々のニーズに対応できたかは疑問が残る。コース全体として統一した方針ができていなかったことも反省点である。

6) 日系人対象について

日系人社会があり、日本語ができなくても、生活に困らない人が多いときいていた日系人だが、日本語が必要だ、勉強したいと感じている人が多いということがわかった。特に今回の経済状況の変化により、日本語が必要と考える人も増えたようである。今まで学習したことのない人たちの学習動機をどのように継続させ、目標達成まで持っていけるか、工夫が必要である

日系人に限定することで、メリット、デメリットがあったと思う。日系人以外の人を排除したわけではないが、教室の特徴として打ち出しているのが、日系人であったことから、結果としては、日系人以外からの参加は少なかったのではないかと感じる。メリットは、特に初級で、通訳を入れることができたことである。ゼロ初級の意思疎通は、媒介語があるのとないのとでは、大きく違い、日本語習得も効率的であった。デメリットとしては、母語に頼りすぎてしまうのではないかと感じる。

7) 評価

自由に参加でき、自主的な学習を支援する日本語教室では、学習目標の設定とそれに対する評価、またコース終了時の新たな目標づくりが難しい。学習者個々のニーズや言語使用場面も様々であり、教師側でひとつのものさしにあてはめることができないからである。ポートフォリオ的に学習者個人の学習の進み具合を個別にみていく方法がよいのではあるが、参加者の出入りも激しく、教師側も限られた時間の中できめ細かく対応していくのは難しい。できればどのような環境にある学習者にも対応でき、言語運用能力を測る（例えばOP Iの評価基準のような）ひとつのスケールを教室として持っていて、教師側、学習者側双方がそれを共有し、学習者のレベルをそこに照らしながら、現状の把握と今後の目標づくりができるような形が望ましい。

<日本教室運営の点から>

学習者の意志に任せた日本語教室では、途中で教室に来なくなってしまう場合も多く、教室側としても参加を強制できないのが現状である。顔を見せなくなってしまう学習者については、①「学習」のスタイルが変化しただけで、勉強自体は続けている。②「学習」しなくても、本人や周囲の人々が（今は）快適に生活している（と考えている）。③何らかの原因で、参加したくてもできない状況になった。など様々なケースを想定し、③に関しては、その問題を解決するにはどうしたらいいか、また「日本語教室への参加」以外で何か方策はないかを考えていく必要もあろう。いずれにしても学習者が、問題を抱えた時はいつでも頼れる存在として「教室」を心のよりどころとしてもらえたら有り難いと思う。

初級のクラスについては、コース終了まで継続して参加した人は、わずかであった。やはり、継続して参加しようという魅力にかけていたのではないかと。自らは、反省点として、カリキュラム、シラバスなど内容をもっと、ゼロ初級者に対応できるものも取り入れ、改善すべきだと考えている。実際に授業に参加した人からも意見を聞き、生活スタイルや日本語の使用状況などを調査していきたい。また、継続した参加ではなかった人へも、いつでも教室で学習が再開できる場として、教室継続をも希望したい。

はればれ日本語教室は、前橋市内でも日系人が多い総社で日本語教室を設置している。コース前半では、小学生、中学生を含む家族での参加があった。総社地区の小中学校では、外国籍児童生徒への対応もあり、あまり日本語ができなくても、困ることは、ないように見受けられた。しかし、中学校を卒業してしまうと、日本語ができない生徒の受け入れ先は少なく、将来も不安定であることが予想される。特に中学生に対する何らかの支援が必要ではないだろうか。今回は、途中から、小中学生の参加は、なくなってしまったが、今後は、子どもたちへの対応も必要ではないだろうか。

c. 今後の活動予定、展望

活動予定

場面で構成したシラバスに地域の人との交流を目的としたイベントを絡めていく形で教室運営を引き続き続けたい。学習目標は一步すすんで自信をもって生活できる日本語を目指したい。新しい取り組みとして、個人カード（ポートフォリオ）の作成や送迎サービスの検討をする。さらにメールマガジンや学習発表プロジェクトなどを国際交流協会や地域のサークルと連携しながら行う。

今回、日本語教室の設置でできた、「日本語教室 はればれ」の学習者とスタッフの仲間を心のよりどころとし、さらなる日本語のスキルアップを目指し、さらに地域の団体とも協力し新たな情報発信も含めたグループを構築したいし、そのためには、外部から人を招くだけでなく、教室側が公民館サークル、集会等に出ていったり、音楽会や料理教室を企画・実施するなど、「情報発信型」になることも必要ではないかと思う。地域文化や情報を取り入れるだけでなく、自分達の持つ貴重な文化、情報、経験から得た知見を外に打ち出していくことで、自分達の存在意義が感じられるようなプログラムづくりをする。

日本語教室が、大きなウエイトを占める場合、できれば、日本語ボランティアの研修など受ける機会があると、日本語教室に対する共通認識をもって進められると思う。

展望

ある特定の言語や、国籍、立場の人限定した日本語教室の存在が、必要だと感じるのは、既存の地域の教室に敷居が高いと感じる人がいるからだ。既存の教室では、ボランティアが足りなかったり、多言語に対応するということは、困難なためゼロ初級の人、参加を躊躇したり、参加したとしても、効果が得られず、継続できなかつたりするのではないだろうか。その点をフォローするため、特定の対象に絞った日本語教室を設置していくことが、必要だ。少しでも話せる自信がつけば、そこから、既存の教室に通えると思う人も出てくるのではないだろうか。

日本語教室の目的は「学習者の日本語能力を高める」ことではなく、「生活を支援していく」ことであるという点をふまえると、日本語指導は支援の一部であり、教師側の知識の押し付けにならないよう常に意識しておきたいと思う。そして「支援したい」と思う日本人なら誰でも参加できるように教える側の間口も広げておきたい。ただ、言語に関して学習者の抱える問題、悩みに対して、効率的に的確なアドバイスを行なおうとする際、日本語の指導法に関する知識は非常に役に立ち、学習者との信頼関係を築き、教える側の準備への負担や様々なストレスを軽減してくれるものであることは確かである。沙龙的な会話の中に、OPIの考え方を生かした「突き上げ」を取り入れたり、会話練習としてのロールプレイを工夫することで教室活動が活性化させることもできるであろう。そういった

意味で教師に対する研修や勉強会の機会が多く設けられればよいと思う。また、教師の人材に関しても、地域を越え、人脈だけに頼らないネットワークを作り、情報を共有したり、経験もあり教えたくても機会がないというような人の力を使えるようにしてはどうか。

今回できた日本語教室設置プログラムをさらにパワーアップし、各地域で日本語教育に悩んでいるボランティアの方々に役立つものとして広げていきたい。

多くの問題を抱える「地域の日本語教室」であるが、「課題」として取り上げられる部分が見えてきたこと自体が、「共生」への第一歩ととらえたい。

（６）その他参考資料

- ・ はればれオリジナルテキスト
- ・ 日本語教室ちらし

参考資料<テキスト>

「仕事の面接を受ける」

会話

田中：パウロさんはいつ日本に来たんですか。

パウロ：6年前に来ました。それからずっと大泉にある自動車部品の工場で働いていました。

1月に契約期間が終わって、それから仕事を探しています。

田中：日本語はどのくらいわかりますか。

パウロ：日常会話は問題ありません。ひらがなとカタカナは書けます。漢字もやさしいものは読めます。

今、家で漢字の勉強をしています。

田中：そうですか。夜勤はできますか。

パウロ：はい、大丈夫です。

田中：家がちょっと遠いですね。

パウロ：はい、仕事が決まったら、会社の近くに引っ越ししようと思っています。

田中：わかりました。何か質問はありますか。

パウロ：寮はありますか。

田中：はい。でも独身寮だけです。

ことば

事務 販売 接客 製造 経理 運送 営業 警備

交通費 残業代 (住宅) 手当 社会保険 (労災) 雇用 健康 厚生年金

契約書 20日締め 25日払い 口座振込

※ ^{かのうけい}可能形

のむ → のめる (のめます) およぐ → およげる (およげます)
のる → のれる (のれます) はたらく → はたらける (はたらけます)

たべる → たべられる (たべられます) あける → あけられる (あけられます)

する → できる (できます) くる → こられる (こられます)

※ ～(よ)うと^{おも}っています

かえる → かえろう やすむ → やすもう

たべる → たべよう みる → みよう

する → しよう くる → こよう

参考資料<テキスト>

d e n w a
でんわ

Telefone

①

j o z e m o s h i m o s h i a r a i s a n n o o t a k u d e s u k a
ジョゼ：もしもし、あらいさん の おたく ですか。

José : Alô, é da casa do Sr. Arai ?

a r a i h a i s o u d e s u
あらい：はい、そうです。

Arai : Sim, pois não.

j o z e j o z e t o m o o s h i m a s u g a y u k i s a n i r a s s h a i m a s u k a
ジョゼ：ジョゼともうしますが、ゆきさん いらっしゃいますか。

José : Eu me chamo José, gostaria de saber se a Sr. Yuki se encontra?

a r a i h a i s h o o s h o o o m a c h i k u d a s a i
あらい：はい、しょうしょう おまちください。

Arai: Sim, aguarde um momento.

②

akuseru moshimoshi shibuyasanno otaku desuka
アクセル：もしもし、しぶやさんの おたく ですか。

Akuser: Alô, é da casa do Sr. Shibuya ?

shibuya hai soodesu
しぶや ：はい そうです。

Shibuya: Sim é.

akuseru akuseruto mooshimasuga satomisan irasshaimasuka
アクセル:アクセルと もうしますが、さとみさん いらっしゃいますか。

Akuser : Eu me chamo Akuser, a Sr. Satomi se encontra?

shibuya a satomiwa ima dekaketeimasu
しぶや ：あ、さとみは いま、でかけています。

Shibuya : Ah, a Satomi saiu.

akuseru soodesuka dewa mata denwashimasu
アクセル：そうですか。では また でんわします。

Akuser: É mesmo. Então eu ligo novamente.

③

k a i s h a h a i t o o k y o o i n s a t s u d e s u
かいしゃ : はい。とうきょういんさつ です。

Empresa: Pois não, Gráfica Tokyo.

m a r i a t a n a k a p a u r o n o u c h i n o m o n o d e s u
マリア : たなかパウロの うちのもの です。

Maria : Eu sou parente do Paulo Tanaka.

i t s u m o o s e w a n i n a t t e o r i m a s u
いつも おせわになっております。

Agradeço pela atenção dos senhores.

s h u j i n o o n e g a i s h i m a s u
しゅじん を おねがいします。

Por favor, poderia falar com o meu esposo?

k a i s h a h a i s h o o s h o o o m a c h i k u d a s a i
かいしゃ : はい、しょうしょう おまちください。

Empresa: Claro, só um momento por favor.

<ひょうげん>

<Expressões>

- ^{tanaka s a n n o o t a k u d e s u k a}
たなかさんのおたくですか。

É da casa do Sr. Tanaka?

いわい おおた やまぐち こばやし

- ^{s a t o m i s a n i r a s s h a i m a s u k a}
さとみさん いらっしゃいますか。

A Sra. Satomi se encontra?

あや えみ はじめ きよし

- ^{y u k i s a n o o n e g a i s h i m a s u}
ゆきさん を、おねがいします。

Por favor a Sr. Yuki.

^{k a n a i s h u j i n t a k a h a s h i s e n s e e}
かない しゅじん たかはしせんせい

esposa esposo Professor Takahashi

- ^{i t s u m o s h u j i n g a o s e w a n i n a t t e o r i m a s u}
いつも しゅじんが おせわになっております。

Grata pela atenção sempre dada ao meu esposo.

^{m u s u m e m u s u k o k a n a i}
むすめ むすこ かない

filha filho esposa

- ^{s h o o s y o o o m a c h i k u d a s a i}
しょうしょう おまちください。

a i s a t s u
<あいさつ>

<Saudações>

o h i s a s h i b u r i d e s u n e
おひさしぶりですね。

Há quanto tempo.

a t s u i d e s u n e
あついですね。

s a m u i d e s u n e
さむいですね。

a t a t a k a i d e s u n e
あたたかいですね。

Está quente.

Está frio.

Está quentinho.

s u z u s h i i d e s u n e
すずしいですね。

Está fresco.

^{かい}会^わ話 1

た なか
田 中：はい、ぐんま食品^{しよくひん}です。

パウロ：求人^{きゅうじんこうこく} 広告^みを見てお電話^{でんわ}したんですが、ご担当^{たんとう}の田中^{たなか}さん、いらっしゃいますか。

た なか
田 中：はい、わたしです。

パウロ：製造^{せいぞう}の仕事^{しごと}に応募^{おうぼ}したいんですが...

た なか
田 中：では、履歴書^{りれきしょ}を持ってこちらにきてください。水曜日^{すいようび}の10時^じはどうですか。

パウロ：はい、だいじょうぶです。21日^{にち}水曜日^{すいようび}の10時^じですね。

ちょっとお聞き^きしたいんですが、シフトはどうやって決^きまりますか。

た なか
田 中：希望^{きぼう}を出^だしてもらってから、相談^{そうだん}して決^きめます。でも、できれば週^{しゅう}2回^{かい}以上^{いじょう}は遅番^{おそばん}で入^{はい}っても
らいたいんですよ。

パウロ：わかりました。

た なか
田 中：では、お待^{まち}ちしています。

パウロ：よろしくお願^{ねが}いいたします。失礼^{しつれい}します。

^{かい}会^わ話 2

しゃ いん
社 員：はい、ぐんま食品^{しよくひん}です。

パウロ：求人^{きゅうじんこうこく} 広告^みを見てお電話^{でんわ}したんですが、ご担当^{たんとう}の田中^{たなか}さん、いらっしゃいますか。

しゃ いん
社 員：あいにく、田中^{たなか}は外出^{がいしゅつ}しておりますが...

パウロ：そうですか。ではまたこちらからお電話^{でんわ}いたします。田中^{たなか}さんは何時^{なんじ}ごろお帰^{かえ}りになりますか。

しゃ いん
社 員：3時^じには戻^{もど}ると思^{おも}います。

パウロ：わかりました。ありがとうご^{しつれい}ざいます。失礼^{しつれい}します。

^{でんわ}電話^{つか}でよく使^{ひようげん}う表現

- こちらから、お^{でんわ}りかえしお電話^{でんわ}いたします。
- あいにく山田^{やまだ}は席^{せき}をは^はずしております。

ビジネス会話

やまだ
山田：はい、ABC電器です。

たなか
田中：ぐんま食品の田中ですが、部長の木村さん、お願いします。

やまだ
山田：いつもお世話になっております。あいにく木村は外出しておりますが、
戻りましたら、こちらからお電話いたしましょうか。

たなか
田中：そうですか。では、お願いします。

やまだ
山田：念のため、お電話番号をお願いします。

たなか
田中：123-4567です。

やまだ
山田：123-4567、ぐんま食品の田中さまですね。木村に伝えておきます。

わたくし、山田と申します。

たなか
田中：よろしくお願いします。

やまだ
山田：失礼します。

Aulas de Japonês para o Cotidiano



Destinado para os candidatos interessados em

- Aprender as normas da língua japonesa
- Interagir com os vizinhos
- Qualificar o idioma e aplicar no serviço

Formação das Turmas

1. Principiante 2. Intermediário 3. Avançado

- As aulas terão auxílio de um intérprete em português
- Cada turma será formada de 3 ~ 7 alunos

	Data/Horário	Conteúdo	Objetivo
1	22/02(Domingo) das 9h00 às 12h00	Apresentação	Preparação para apresentação pessoal e como escrever um currículo em japonês.
2	01/03(Domingo) das 9h00 às 12h00	Culinária	Aprender entender e ensinar receitas culinárias
3	08/03(Domingo) das 9h00 às 12h00	Mudanças	Procurar uma moradia Interagir com a vizinhança
4	15/03(Domingo) das 9h00 às 12h00	Comunidade	Preparação para explicar e orientar sobre a sua moradia no Japão

Confraternização

Vamos Interagir com as pessoas da região
praticando o idioma Japonês que aprendemos nas aulas!

01/03(Domingo) das 12h00 às 15h00	HINAMATSURI (Festival das Bonecas) com comida Brasileira e MAKISUSHI do Japão
22/03(domingo)	Orientações de Soja Machi

Local: RECOM (けんこうサロンなでい) Maebashi-shi Soja-machi Soja 861

Custo: Gratuito

Participantes: 20 candidatos

Inscrição: Projeto Maebashi 027-255-5515

Informações - Português...090-1035-5803 (Iwai)

Japonês...080-3538-5575 (Masuki)

VAMOS NOS DIVERTIR!

CRECHE GRATUITA

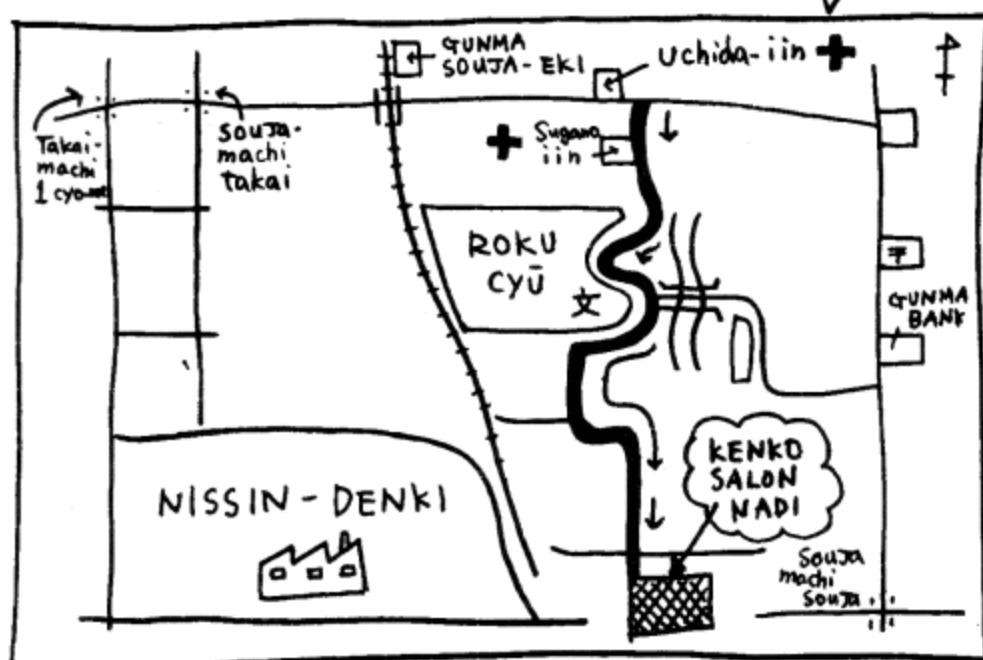
Traga
Seus
filhos

AULAS DE NITONGO

Destinado para todos
os Nikkeis e familiares
que estão no Japão.
Acompanhamento de
Intérpretes em
Português.
Vamos aprender o
idioma para facilitar
a nossa vida cotidiana.

INSCRIÇÃO

- o Aulas: Gratuitas
- o Aos Domingos: 9:00~12:00
- o Local: **KENKO SALON
NADI**
(Estacionamento no Local)



Para maiores
informações:

PROJETO MAEBASHI

Tel: 027-251-5515

contato:

080-3538-5575 **Massuki**
(em Japonês)

090-1035-5803 **Christina**
(em Português)

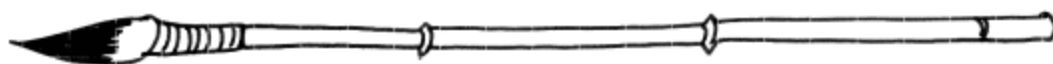
Convide seus amigos e familiares!



11º Evento de Intercâmbio da RECOM

Vamos aprender a Caligrafia japonesa!

Você pode aprender caracteres chineses e letras japonesas.



Data: 11 de janeiro (domingo)
das 9 às 12 horas

Local: Salão Kenkou NADI
Maebashi-shi, Soujamati, Sooja 862

Preço: **gratuito**

Traga por favor um saco plástico para
levar a sua obra.

Haverá lanche japonesa para todos os
participantes depois de praticar caligrafia.

AULAS DE NIHONGO hare bare

Você pode aprender o
japonês útil na sua vida
cotidiana e no seu
trabalho com professoras
japonesas e intérpretes.

Aos Domingos:
9:00 ~ 12:00

Local: KENKO SALON
NADI

O número de alunos
que podemos aceitar.

(10 iniciantes e **20**
10 intermediários)

Caso se inscreverem,
pessoas do que o nú-
mero acima, será feito
sorteio.

☎ Contato
• em Japonês
080-3538-5575
(Masuki)
• em Português
090-1035-3803
(Cristina)

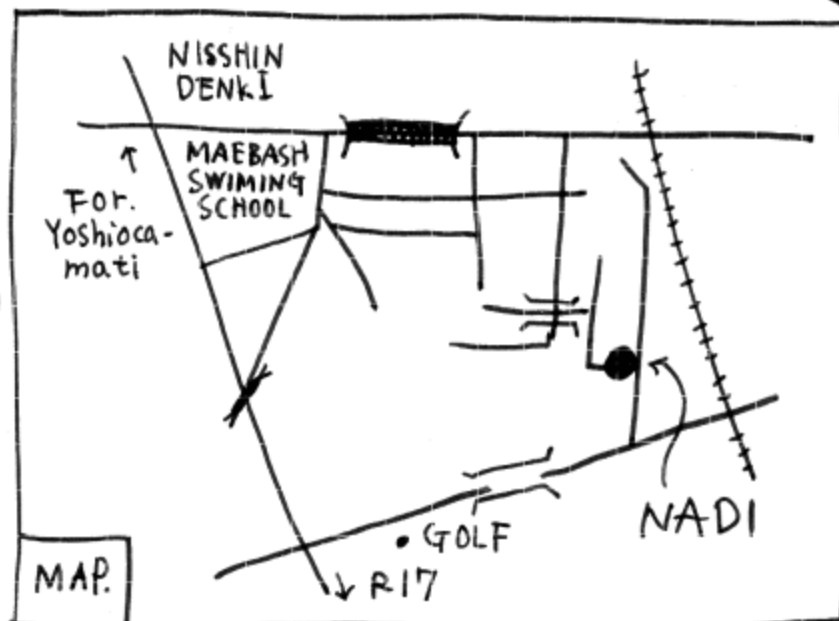


Informação inscrição do evento **RECOM**

027.251.5515 ← Atendimento em japonês

Minimercado Brasil Kimura

027.251.9980 ← Atendimento em português



• **NER. MAEBASHI** •
Minimercado Brasil

参考資料〈チリ〉 第12回 多文化共生ネットワーク前橋 交流イベント
日本語教室“はればれ”とのコラボ企画 第2弾

あなたは知っていますか緊急時の救命方法を！！

救命講習



心肺蘇生法・止血法・異物除去法・AEDの使用法

毎年大きな地震が日本に起きています。幸いなことに群馬県では起きていませんが、いつ大地震が来るとも限りません。また、地震のみならず、交通事故や緊急時など、身の回りにはいつ起こるかわからない、危険がいっぱいあります。そんなときに、救命法を知っていれば、大切な人が救えるかも知れません。

前橋市西消防署のご協力により、救命講習を行います。皆さんぜひご参加下さい。

日時：2月8日（日） 午前9:00から



場 所：けんこうサロンなでい
参加費：無 料
定 員：30名
準 備：実習のできる服装



救命講習修了者には、救命講習修了証が交付されますので、2月6日(金)までにお電話かFAXまたはメールにてお申込み下さい。

申し込み・お問い合わせ

RECOM(レコム)多文化共生ネットワーク前橋
info@multiculture.jp

◇けんこうサロンなでい（日本語）
TEL/FAX：027-251-5515

ポルトガル語でのお問い合わせ

◇NER 前橋 ブラジル人学校（ポルトガル語）
TEL/FAX：027-252-5944
◇ミニ メルカード ブラジル きむら（ポルトガル語）
TEL/FAX：027-251-9980

参考資料<チラシ>

13° Evento de Intercâmbio da RECOM



Hina Matsuri



- ◆ Preparação de Sushi
- ◆ Preparação de comidas típicas brasileiras.



(Fotos do evento realizado em Março de 2008)

Data: 1o. de março de 2009 (domingo)

Horário: 12:00 horas

Local: Salão Kenkou NADI

Preço: 500 ienes

Informação e reservas em japonês

RECOM

(Rede de Comunicação de Maebashi)

info@multiculture.jp

Tel/Fax: 027-251-5515

Em português

N.E.R Maebashi

Tel: 027-252-5944

MINI MERCADO BRASIL

Tel/Fax: 027-251-9980

参考資料<チラシ>

第13回 RECOM(多文化共生ネットワーク前橋)交流イベント
日本語教室“はればれ”とのコラボ企画 第3弾



ひな祭り



◆お寿司作り体験◆
◆フrazil料理作り体験◆



(昨年の交流イベント「ひな祭り」の様様)

日時：3月1日(日) 午後12:00から

場所：けんこうサロンなでい(前橋市総社町総社 862)

参加費：500円

申し込み・お問い合わせ

RECOM(レコム)多文化共生ネットワーク前橋

info@multiculture.jp

◇けんこうサロンなでい(日本語)
TEL/FAX: 027-251-5515

ポルトガル語でのお問い合わせ

◇NER 前橋 ブラジル人学校 (ポルトガル語)
TEL/FAX: 027-252-5944

◇ミニ メルカード ブラジル きむら (ポルトガル語)
TEL/FAX: 027-251-9980